

と どりよく
獲りすぎない努力！

みかく まも 冬の味覚ズワイガニを守るために

ふゆ みかく なだか
冬の味覚として名高い「ズワイガニ」。

にほんかいせいふ さいだい さんち
日本海西部はズワイガニの最大の産地となっています。

すいさんけんきゅう きょういくきこう せいたいけんきゅう しげんけんきゅう く あ
水産研究・教育機構では、生態研究と資源研究を組み合わせ

て、どうやったらいつまでも資源を絶やさずに漁獲を続けられる

かを研究しています。この動画では、ふだんわたしたちがなかなか

み けんきゅう どうが
か見られないズワイガニの幼生や稚ガニの画像を見ながら、ズワ

イガニの生態を知り、研究の目的を知ることができます。



YouTube チャンネル



こうかいちゅう
で公開中！

まも ひさく シラスを守る秘策！？



国立研究開発法人
水産研究・教育機構

ひうちなだ しげんげきげん お
燧灘におけるシラス資源激減はなぜ起きたのか。

しよくざい
わたしたちの食料としておなじみのシラス。

さいきん せ と ないかいちゅうおうぶ ひうちなだ ぎょかく へ
最近、瀬戸内海中央部の 燧灘でシラスの漁獲が減っていて、
ぎょぎょうしゃ すいさんか こうぎょうしゃ しんぱい どうが
漁業者や水産加工業者はこのことを心配しています。この動画
では、ひうちなだ ぎょかく ふたた ふ
燧灘でなぜシラスの漁獲が減ったのか？再び増やすには
どうすればよいのかを、けんぎゅうしゃじしん ことば かいせつ
研究者自身の言葉によって解説して
います。

どうが
(この動画では、カタクチイワシの仔魚を「シラス」という
ことば あらわ
言葉で表しています)



YouTube チャンネル



こうかいちゅう
で公開中！

ようしょくけんきゅう さいせんたん みつちやく
マダコ養殖研究の最先端へ密着！？

お寿司、たこ焼き、たこめしなどに使われ、わたしたちにと
ても身近な食材「マダコ」。瀬戸内海をはじめ日本各地の沿岸
で漁獲されていますが、最近では日本のみならず世界的にも獲り
すぎのために天然のマダコが減ってしまうことが心配です。

それならば、マダコを養殖してみたら？

いま、いろいろな魚類や藻類が養殖されてわたしたちの
食材として利用されています。しかしマダコの養殖は、実は
簡単ではありません。なぜ難しいのか？どうすればそれを克服
できるのか？この動画で紹介しています。



YouTube チャンネル



こうかいちゅう
で公開中！



しげんりょう けんきゅう
「資源量」を調べる研究

さかな と しそん へ ちか しょうらい
お魚をたくさん獲りすぎると、子孫が減っていき、近い将来、
きゅう と おそ
急に獲れなくなってしまう恐れがあります。そうならないよう
に、いま海の中にお魚がどれくらいいるのか（資源量といいま
す）を調べて、これから獲る量をどれくらいに制限すればよいか
かんが ひつよう
を考えることが必要です。

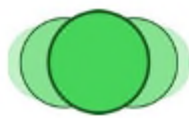
しげんりょう しら けんきゅうしゃ らん せいぎょ
「資源量」を調べるために、研究者は、卵から成魚になるまで
あいだ さかな す ばしょ しら かいすい あ なか
の間にお魚が過ごす場所を調べたり、海水をくみ上げた中にお
さかな こども しら うおいちば でまわ
魚の子供がどれくらいいるか調べたり、魚市場に出回っているお
さかな おお しら ちょうさ く あ じっし
魚の大きさを調べるなど、さまざまな調査を組み合わせで実施し
ています。

せ と ないかい
いま瀬戸内海では、トラフグ、マダイ、イカナゴ、ヒラメ、サ
たいしょう しげんりょう けんきゅう
ワラなどを対象にこのような資源量の研究をしています。



うみ さかな こども しら
海にお魚の子供がどれくらいいるか調べるようす

うおいちば さかな しら
魚市場のお魚を調べるようす



さいきんすうじゅうねんかん せとないかい ぎょかく ようしょくせいさんりょう
最近数十年間の瀬戸内海の漁獲量や養殖生産量を見ると、

じだい おお へんか
時代とともに大きく変化していることがわかります。これには、

にんげん かつどう えいきょう きこうへんどう えいきょう かんが
人間の活動の影響、気候変動の影響などが考えられます。

にんげん かつどう えいきょう ちっそ えいようえん
人間の活動の影響は、たとえば窒素やリンなど「栄養塩」の

せとないかい りゅうにゅうりょう じだい おお へんか
瀬戸内海への流入量が時代によって大きく変化したことや、

すうじゅうねん まえ せとないかい おお ばしょ う た くっさく
数十年ほど前までは瀬戸内海の多くの場所で埋め立てや掘削の

こうじ おこな さかな こ く ばしょ
工事が行われ、さまざまなお魚の子どもが暮らす場所である

ひがた も ば きゅうげき へ あ
干潟や藻場が急激に減ってしまったことが挙げられます。

けんきゅうしゃ かいちゅう えいようえん りょう へんか しら
いま研究者は、海中の「栄養塩」の量の変化を調べたり、

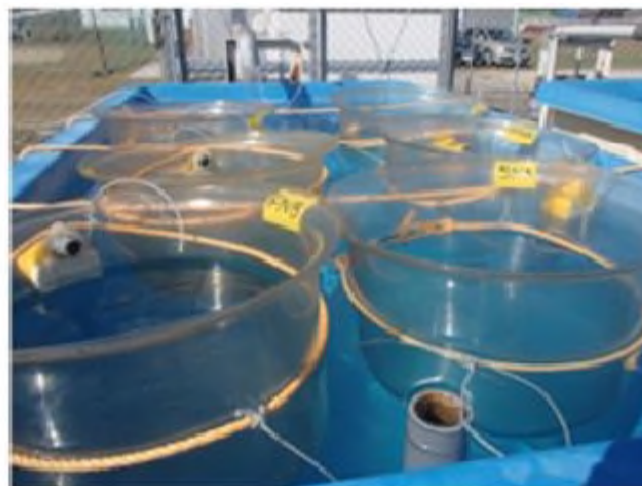
ひがた も ば しょうさい しら
干潟や藻場のはたらきを詳細に調べたりしています。このよう

ちょうさ けっか もと せとないかい かんきょう ほぜん ぎょかく
な調査の結果に基づいて、瀬戸内海の環境を保全しながら漁獲

ようしょく つづ ほうほう けんきゅう
や養殖を続けていく方法を研究しています。



アカモク



かがくぶっしつ けんきゅう
化学物質の研究

いま、わたしたちの身の周りでは、洗剤、農薬、塗料などいろいろな化学物質が使われています。それらが川、湖や海にすむお魚などに悪い影響を与えていないか調べるとともに、その対策や規制にも取り組んでいます。

ゆうがい ゆうどくそうるい けんきゅう
有害・有毒藻類の研究

海や湖の水中に暮らすプランクトンの中には、赤潮や貝毒の原因になる「有害・有毒藻類」と呼ばれる仲間がいます。この仲間が大量に発生すると、漁業や養殖業は大きな被害を受けてしまいます。そこで、研究者は、毎年海水や泥を採取してプランクトンの有無を調べるとともに、今後の発生を予測する方法や、被害を減らす方法の研究に取り組んでいます。



あかしお はっせい
赤潮が発生したときのようす